

三井寺の桜散り落つ池の鯉

へだ おとめ ご 青竹隔つ乙女子の影

令和六年四月十八日

大中臣正比呂



天台寺宗門の三井寺は長等山園城寺と云う。寺には靈水が湧き、金堂の
彌勒菩薩に供える「閼伽水」に用いたが、天智、天武、持統の三帝の産
湯の井戸としても用いられたことから、「御井」と呼ばれていた。

平安時代、天台座主・智証大師円珍はこの寺を天台別院として中興し、
三部灌頂の法儀にこの靈泉を用いて、御井寺は三井寺となった。

桜の花びらは靈泉に流されて恋の池へ赴く。先は琵琶湖疎水である。